



Risk Flash No.277 (Vol.9 No.12)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
発行責任者：リスク研究センター長 近藤豊将

- 国際カンファレンス報告：近藤豊将・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page1-3
- 第1回リスク研究センター客員研究員ワークショップ報告：得田雅章・・Page4-5

国際カンファレンス成果報告

ファイナンス学科 教授 近藤 豊将

経済学部リスク研究センターでは、大学のグローバル化戦略の一環として 2016 年度に長崎大学、西南財経大学（中国）と共催で『第 14 回 アジア金融市場国際カンファレンス』を運営しました。翌2017年度にはリスク研単独で“The 1st International Conference on Risk in Economics and Society, Shiga University”（通称、RESSU；レスー）を運営しました。

これらの成功を受け、2018年12月15日～16日にて、京都リサーチパークを会場として、長崎大学、西南財経大学金融学院、北京工商大学と共催での国際シンポジウム：“International Conference on Asian Financial Markets and Economic Development -Financial Issues on Asian Countries and Market”を開催いたしました。

同シンポジウムの開催にあたっては、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社様、国際ジャーナル“Economic Modelling”誌の協賛ご協力を得ています。また、併催という形で、昨年リスク研究センター主催で開催しました国際シンポジウムの第 2 回目、The 2nd International Conference on Risk in Economics and Society, Shiga University (第 2 回 RESSU)を運営いたしました。

会場における案内



会場の様子



会場は京都府下京区の京都リサーチパークで、2日間にわたって36本もの論文が報告される大きな国際会議となりました。(ただし、2~3本の発表辞退がありました。)今回は、カンファレンスの目玉としてSSCI(Social Science Citation Index)にも収録されている著名な国際的学術雑誌 Economic Modelling の編集者である Sushanta Mallick 氏(Queen Mary University of London)に Keynote Speech をお願いするとともに、本国際会議で発表された論文の中から査読のうえで同誌の特集号に掲載されることにしました。

このような戦略が功を奏したのか、中国、台湾、マレーシア、フランスなど、多くの国から一線級の研究者が集まりました。もちろん日本からも長崎・滋賀の両大学を中心に多数の参加がありました。



位田学長による Opening Address



Sushanta Mallick 氏による Keynote Speech

初日(15日)には、本学位田学長ら主催校の代表による挨拶と前述の Sushanta Mallick 氏による Keynote speech の後、3つの会場に分かれてパラレルセッションを行いました。テーマは資産価格理論、コーポレートファイナンス、マクロ経済学などで、どの会場も活発な討論が行われました。ここでは本学の教員には座長、本学の学生アルバイトの皆さんにはタイムキーパーなどで活躍してもらいました



セッション風景

夜には京都ガーデンパレスに場所を移し、レセプション・パーティーを行いました。ここでは、専門的な内容に限らず、日ごろの研究活動や各国の教育や文化などについて、発表者からアルバイトの学生諸君まで含めて楽しいスモール・トークに花が咲きました。このような会話は研究活動の楽しみであり、ときに新しい研究のネタになることもあります。

今回のような国際カンファレンスの目的は、世界中の研究者が交流し意見交換する場を提供することにより、研究活動を促進することです。そのために本学経済学部およびリスク研究センターは主導的な役割を果たしてきています。また、運営上の労苦をともにする中から、長崎大学をはじめ、他の主催校の研究者との交流もすすむのです。最近では、大学のグローバル化がかまびすしく喧伝されていますが、大きな成果が一朝一夕で得られるわけではありません。地道な活動の積み重ねを次なる成果につなげられるように、日々の活動にも気持ちを新たに取り組んでいく所存です。

※末筆ながら、今回のカンファレンスの開催にあたって、座長などを務めていただいた本学の教員、多くの事務スタッフ、学生アルバイトの皆様に改めてお礼を申し上げます。



レセプション会場



位田学長による挨拶

第1回リスク研究センター客員研究員ワークショップ報告

経済学科 教授 得田 雅章

今回のワークショップは、「本学研究者と学外研究者との交流を促進すること」を目的とした、客員研究員による学会報告型のワークショップでございました。

日程は全2日で、今日までで半分の方にご報告いただきました。各報告の講評に先立ちまして、改めてではございますが、本センター設立の趣旨を確認させていただければと存じます。

それは、

- リスクと不確実性に関連する研究
- リスク研究普及と深化のための研究成果蓄積
- リスク研究蓄積と教育を通じた社会生活に潜む諸々のリスクの理解と普及であります。

これらの遂行のために主な活動領域を①国際リスク、②金融リスク、③経済・社会リスクの3領域とし、セミナー、シンポジウム、それと今回のワークショップを通じて取り組んでいます。

本日はそのうち、③経済・社会リスクにつきまして三輪氏および福嶋氏より、②金融リスクにつきましては海老原先生・本学赤塚先生にカバーしていただけたのではないかと考えています。

最初は（『公募型』客員研究員）三輪氏による「顧客獲得と維持に関する実証分析」であり、顧客獲得方法と顧客維持の関係についてご報告いただきました。私にとってユニークだったのは、データに美容サービスのマイクロデータを用いた点でした。こうしたデータは従来なかなか入手できないか、そもそも存在しないものでありましたが、情報化や電子化によるビッグデータ蓄積が、今後こうしたニッチ市場の分析に活用され市場に潜むリスクを洗い出してくれるものと感じました。また多くの非線形回帰モデルの紹介は、エコノメトリシャンの端くれである私にとって刺激的なものでありました。



次は（『公募型』客員研究員）福嶋氏による「ベンチャー類型による新規事業促進効果に関する比較研究」であり、こちらもマネジメントに関するものでありました。これからの成長を占ううえで、ベンチャーの保護・育成は重要課題ですが、その類型を事例研究として詳細に紐解き、日本に適したスタイルを提唱されるというのは、リスクを回避しより確実なリターンを得るうえで重要な示唆を得た気がしました。



最後は（『共同研究・助成研究型』客員研究員）海老原先生・本学赤塚先生による「地方銀行単体の業績指標の価値関連性—業務純益を明示しない損益計算書の様式の妥当性に関して—」でありました。私のような経済統計系の研究者からすると、決算書やディスクロージャー誌のフォーマットというのは given（所与）として扱っていたのですが、実はそうしたフォーマットというのは完成形ではなくて、今なお改善の余地があり発展過程にあるのだと思い知らされました。最新の学会誌に掲載されたご業績をわかりやすく説明頂き、「業務純益やその関連指標と価値関連性は、経常損益や純損益との関連性に比べ勝るとも劣らないレベルである」というエビデンスを精緻なデータ分析から示してくれました。



以上、本日の3報告は、経済・社会リスクおよび金融リスクの具体的応用例として、関心のある皆様の脳裏に刻まれると同時に、本センターの貴重な研究資源として、蓄積されたものと確信いたします。貴重な場を作っていただいた皆様には、改めて御礼申し上げます。

平成31年度客員研究員（公募型）の募集を行っております。

平成31年度研究テーマ・・・『**社会科学分野におけるリスク研究**』

応募期間 平成31年2月1日～平成31年2月28日

応募要項等はこちらをご確認ください⇒

<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/10/2/7/4.html>

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況があった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変して blog 等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

(<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/10/2/3/12.html>)

発行：滋賀大学経済学部 附属リスク研究センター

編集委員：近藤豊将、得田雅章、石井利江子、野田昭宏、菊池健太郎、
松下京平、井澤龍、清水昌平

事務補佐員：山崎真理

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局（Office Hours:月－金 10:00-17:00）

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page : <https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/>



滋賀大学リスク研究センター
公式 facebook ページ